

6月21日(水)、Zeppにて開催のピンク・フロイド映画『ザ・ウォール』特別上映時に 巨大白壁 [ダンヴォール] 現る？ ザ・ウォール・ライブ'80-'81のハイライト、37年の時を経て、白壁倒壊も再現か？ 本日6月1日(木)am11:00より、クラウドファンディング開始！！



マスコミ関係各位

平素はお世話になっております。

1985年までピンク・フロイドのメンバーでありの中心的メンバーでもあったロジャー・ウォーターズ。そのロジャー・ウォーターズ自身の自伝的要素を加えて制作されたピンク・フロイドの'79年発表の世界が認める名盤であり全世界で3,000万枚もの驚異的な売り上げをあげた大ヒット・コンセプト・アルバム『ザ・ウォール』(全英最高位3位、全米1位。全米では15週連続1位を記録)である。その①ロジャー・ウォーターズの25年ぶりの新作『Is This the Life We Really Want?』が、来週6月7日発売、②映画『ザ・ウォール』(82年8月公開)の初上映から今年で35周年を迎え、そして③ピンク・フロイドが今年8月でデビュー50周年を迎えることを記念して、ピンク・フロイドの音楽映画『ザ・ウォール』を6月21日(水)にZepp DiverCity(東京)とZepp Namba(大阪)にてライブ絶響上映することになりました。

【ココロの壁をぶっ壊せ！】白ダンボールで“6m×11m”のダンヴォール[白壁]を創る夕べ。

Presented by 6/21(水)映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』一夜限りのライブ絶響上映@Zepp DiverCity 通称『白ダンヴォール・プロジェクト』とは？

ピンク・フロイドは、『ザ・ウォール』アルバムを引っ提げたツアーを1980-81年にニューヨーク・ロサンゼルス・ロンドン・トルントの4ヶ所30公演限定で空前絶後のライブを敢行した。そのライブのハイライトが、ステージ上に作られた巨大な白壁が崩壊するという前代未聞の演出をやっていたのだ。ドイツを東西に分断する巨大な壁が存在した時代。当時はそのセンセーショナルな演出が、アルバムのコンセプトや歌詞に込められたメッセージとリンクし、世界的な話題となった。残念ながらそのタイミングでのピンク・フロイドの来日公演は実現せず、またその後のロジャー・ウォーターズの『ザ・ウォール』再現ツアーでの来日公演も実現することはありませんでした。

6/21(水)、Zepp Diver Cityにて音楽映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』一夜限りのライブ絶響上映を実施いたします。その上映前に1980-81に行われた『ザ・ウォール』ライブの演出をオマージュした疑似演出として、ライブ絶響上映時に投影される映像とほぼ同じ画面サイズ(タテ6m×ヨコ11m)のダンボールの白壁(ダンヴォール)を作成し、倒壊させるといって“build&crash”を目的とした修め切ないこの日限りの施策を実施したく判別プロジェクト『白ダンヴォール・プロジェクト』を立ち上げました。1980-81に行われた『ザ・ウォール』ライブの規模や演出には到底およびませんが、遡ること37年前、1980年にピンク・フロイドのライブを夢見たみなさんは勿論のこと、最近ピンク・フロイドを知った方も含めて『Tear down the wall!!(壁をぶっ壊せ!!)』と叫びましょう！



しかし……、この『白壁(ダンヴォール)プロジェクト』、資金が集まらないと実現いたしません。巨大白壁を創り、実行するには35万円以上の資金が必要になります。本日6月1日(木)am11:00より、クラウド・ファンディング会社「MotionGallery」の公式HPにて、本プロジェクトへの制作基金を集めるサイトが開設されました。1口(500円)で、口数によって限定で、イベントTシャツや、6/7発売のロジャー・ウォーターズ新作『Is This the Life We Really Want?』の貴重な非売品プロモグッズ、イベント参加の証記念グッズ等々がプレゼントされる。6月14日(水)23:59までに35万円以上の資金が集まれば、晴れてこの白壁(ダンヴォール)企画を実施することができます。また一緒に白壁(ダンヴォール)を制作してくれる方も募集します。35名限定になります。白壁施策を実施するにあたり、20名以上のボランティアスタッフが必要となります。(ダンボールを縦に連結した高さ約6mの柱を、横に約11m並べて立てた白壁(ダンヴォール)の制作になりますので、高所での作業は一切いたしません。)詳しくはクラウド・ファンディング会社「MotionGallery」内『白壁(ダンヴォール)プロジェクト』のサイト | URL | https://motion-gallery.net/projects/tear_down_the_wallにてご確認ください。

アルバム『ザ・ウォール』を創り、そのコンセプトそのままに創り上げた音楽映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』に込められたロジャー・ウォーターズの意思やバンドの精神に対するオマージュとして、タテ6m×ヨコ11mの白壁(ダンヴォール)を“build&crash”いたします。プロジェクトマップングやVR等ヴァーチャルな世の中になりつつありますが、手弁当的な人力の優さや切なさもいぞいぞみいたない意地もあつたりします。1980-81に行われた『ザ・ウォール』ライブの規模や演出には到底およびませんが、『Tear down the wall!!(壁をぶっ壊せ!!)』と絶叫しながら、会場にお集まりのみならずと併にココロの壁をとばらえたらこれ幸いです。6/21限りの本企画に、ご賛同いただける方kocoroより、お待ちしております。

【ココロの壁をぶっ壊せ！】

白ダンボールで“6m×11m”のダンヴォール[白壁]を創る夕べ。

Presented by 6/21(水)映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』一夜限りのライブ絶響上映@Zepp DiverCity (通称『白ダンヴォール・プロジェクト』)

■目標設定金額 | 35万円(税込)以上

■必要なボランティア数 | 20名以上

■期間 | 6月1日(木)am11:00—6月14日(水)23:59まで

■その他詳細は、『白壁(ダンヴォール)プロジェクト』のサイト | URL | https://motion-gallery.net/projects/tear_down_the_wall (クラウド・ファンディング会社「MotionGallery」内)にてご確認ください。

※映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』一夜限定ライブ絶響上映@Zepp 東阪の鑑賞券がなくなるとご入金いただけます。

※白壁(ダンヴォール)プロジェクトは、Zepp DiverCityのみ実施します

※白壁をご覧になるには、Zepp DiverCityにて行われる映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』ライブ絶響上映のチケットが必要となります。

※期日までに、白壁制作費用が集まらない場合は、本白壁制作企画は中止とさせていただきます。合わせてご購入された映画観賞チケットの払い戻しはいたしません。

※また実施するにあたり、実施可能な最低人数が20名以上

※白壁制作費用が集まらなくても、映画『ピンク・フロイド ザ・ウォール』一夜限定ライブ絶響上映は実施いたします。

タイトル | ロジャー・ウォーターズ(元ピンク・フロイド)新作リリース記念、音楽映画『ピンク・フロイド “ザ・ウォール”』一夜限りのライブ絶響上映@Zepp 東阪

原題 | Pink Floyd The Wall

日程 | 2017年6月21日(水)

開場 | 18:30 開演 | 19:30

会場 | Zepp DiverCity (TOKYO)、Zepp Namba (OSAKA)

券種 | ①センターエリア・シート | ②一般自由席 | ③スタンディング (いずれも1Fのみの販売になります)

登壇 | 伊藤政則氏(音楽評論家) ※Zepp DiverCity(東京)のみ登壇となります。

① 白壁(白ダンヴォール)の制作資金が集まり、②ボランティアスタッフが20名以上集まりましたら、伊藤政則氏登壇、白壁(ダンヴォール)の倒壊セレモニーを行います

特別施策 | タンヴォールで白壁を作り、その倒壊を再現イベントを実施。 ※Zepp DiverCity(東京)のみ

※本編上映前の登壇を予定しております。トークのみのイベントになります。 ※当日、予告なく変更になる場合がございます。また都合により、ご本人の登壇が中止になる場合もございます。

1982年/イギリス/95分/16:9/DVD/2ch/日本語字幕

ピンク・フロイドの全世界で3000万枚以上を売り上げることとなる世界的名盤『ザ・ウォール』(’79年作品)を元に映画化した作品。ほとんどセリフもな(映画は、このコンセプト・アルバム『ザ・ウォール』の収録楽曲で構成されている。

撮影ノートも35ページしかなく、アラン・パーカーによる「なぜ、(この作品に)脚本がいる。音楽に語らせろ！」という言葉が内容を象徴している。孤独・挫折・恐怖・狂気……感情が入り乱れる強烈かつ壮大な歌詞、音楽、アニメーションも駆使した映像と総合芸術として構築された映画『ザ・ウォール』は、発表から35年を経過した今でも熱心な信奉者が絶えることがない。

ピンク・フロイドの中心メンバー、ロジャー・ウォーターズの25年ぶりのニュー・アルバムを発表することや今年ピンク・フロイドのデビュー50周年(1967年8月デビュー)であることや5月よりロンドンV&A博物館でピンク・フロイド大回顧展「The Pink Floyd Exhibition: Their Mortal Remains」が開催されるなど、世界的にピンク・フロイド祭の様相となっている。そんなピンク・フロイドの来日公演は3回しか行われてなく、ロジャー・ウォーターズ/リチャード・ライト/ニック・メイスン/デヴィッド・ギルモアの4人の来日公演は72年の来日より45年行われていない。その重要な4人が作った音楽映像のシャワーを日本屈指のライブハウス Zepp DiverCity と Zepp Namba の『ダイナミックな音圧』ライブ級の大音響『迫力の大画面』で、全身で浴びまかれる貴重な機会。Zepp DiverCity のセンターエリア・シートは完売となりました。本作は、この数年日本では上映されておらず、この度奇跡的に上映が実現することになりました。次いつこの映画を劇場体験できるかわかりません。実現するかわかりませんが、せつな白壁(ダンヴォール)プロジェクトも含めて、これが最初で最後の機会になります。絶対お見逃しなく！！

6/21(水) ピンク・フロイド音楽映画『ザ・ウォール』、一夜限りのライブ絶響上映@Zepp 東阪

ソニー・ミュージックダイレクト

宣伝：屋間、山崎、鍵尾 TEL:03-3515-5586/FAX:03-3515-5589

【新作映画ご紹介のお願い】 情報解禁：6月1日（木）am11:00—

全世界で3,000万枚突破！今もお売れ続けているアルバム「The Wall」
250万ドルもの巨費が投じられ、延べ15万人もの観客を動員、巨大な壁をステージに形作り、あまりにも巨額なセットのためNY、LA、ロンドンでしか実現できなかった伝説の「The Wall」ツアー
1200万ドル(約30億円)の巨費を投じ、ロジャー・ウォーターズのコンセプトを破格のスケールで映像化した、映画「The Wall」

「アルバム」、「ツアー」、「映画」——

20世紀のエンタテインメントの歴史の中でも5本の指に入るロック史上に燦然と輝く「The Wall」プロジェクト

79年11月30日英国で発表された2枚組大作アルバム「The Wall」は全英チャート3位、全米チャート1位を記録(USでは15週連続No.1を記録)、これまでアルバムは全世界で2300万枚売れ続け、ロック史に燦然と輝く名盤として最大級の評価を受けているといっても過言ではない。(シングルカットされた「アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール」も全米No.1を獲得)

またアルバム「The Wall」にともなうツアーはそれまでのロックコンサートの概念を覆す、破格のスケールで展開され、伝説のショーとして今もお語り継がれている。ツアーは80年2月7日～11日までロサンゼルス
のスポーツアリーナで5夜連続公演が催され、演奏が続く間にステージ上には420個の煉瓦を使って、高さ31フィート、幅160フィートにも及ぶ巨大な壁が作られていき、次第にメンバー達の姿も全く見えなくなって、
ショウがクライマックスに達すると、その壁が一気に崩れ落ちるといふ、ロック史上空前のセットであった。その後NYのナッソー・コロシアムで5夜連続公演をおこない、LAとNYで計10回おこなわれたこのショーには25
0万ドルもの巨費が投じられ、延べ15万人もの観客を動員するが、結果的には50万ドルもの赤字となる。本国英国では8月4日～8月9日までロンドンのアールズ・コートにて6夜連続公演が催された。因みに、ロジャ
ー・ウォーターズは90年にベルリンの壁崩壊を記念したイベントを開催。「The Wall」ライブを様々なアーティストと共に再現。50万人の観客を動員した。

そしてこの映画「The Wall」である。1200万ドル(約30億円)の巨費は投じられ、82年5月22日にカンヌ映画祭で初めて公開。ピンク・フロイドのロジャー・ウォーターズ、風刺漫画家のジェラルド・スカーフ、映画監
督のアラン・パーカー、そしてブームタウン・ラッツのボブ・ゲルドフ…4人の創造性豊かな人々が斬新で個性的なアイデアと情熱を持ち寄りこの映画を作り上げた。フィルムを回した60時間、カットは6千を超え、ジェラ
ルドが描いたアニメも1万枚以上、それを集めて芯となるのが「音楽」…。映画のためにバンドはスタジオへ戻り映画向きにアレンジされた楽曲の数々をオーケストラと共に録音した。初期の録音に参加したマイケル・ケ
イマンがアレンジャーとしてオーケストレーションに磨きをかけ、新しいトラックは時に原曲の表情を一新したが、原曲のエネルギーは更に強められた。…音楽が崩壊の物語を紡いでいく。”

●音楽：ピンク・フロイド

全世界で2億5千万枚以上のセールスを誇り、永遠にロック史に輝く「時代を超越する音楽芸術」ピンク・フロイド。もともとは'60年代半ば、サイケデリック・ロック・バンドとして、天才シド・バレッ
ット(G, Vo)を中心に結成された。他のメンバーは、ロジャー・ウォーターズ(B)、リチャード・ライト(Key)、ニック・メイソン(Dr)。バンド名は、ピンク・アンダーソン、フロイド・カウンスルという
2人のブルースマンから取られている。'67年、2枚のシングルをヒットさせたあと、ファースト・アルバム『夜明けの口笛吹き』を発表。高い評価を得たこのアルバムは、シド・バレット色が濃い内
容だった。翌年頭に、デヴィッド・ギルモア(G)がバンドに参加。一方、シドは精神に不調をきたし、実質的にバンドを去る。ピンク・フロイドはそれまでの実験的な面に、長い楽器パートを含んだ曲
構成を取り入れ、のちにプログレッシヴ・ロックと呼ばれる体裁を徐々に整えていった。そして彼らの音楽が最高の形で実を結んだのが'73年の『狂気』。楽曲、演奏、精神、録音、すべての面において
成功したアルバムといっていよう。全米No.1を獲得し、チャート内に171週とどまるという記録を打ち立てた。これまでに最も売れたロック・アルバムの1枚で、現在もお全世界中で売れ続け
ている。アメリカのビルボード200位以内に15年間チャート・インしたモンスター・アルバムである。その後も'75年『炎へあなたがここにいてほしい』、'77年『アニメイズ』、'79年『ザ・ウォール』
と傑作アルバムを発表。'83年『ファイナル・カット』をリリース後実質的に活動停止。'86年にロジャー・ウォーターズはバンドを脱退するが、ギルモアを中心とした他のメンバーとの法廷闘争まで発
展。結局ギルモア中心のフロイドとして継続。'87年に『鬱』を発売。その後のツアーも大成功。94年の『対 (TSUD)』を最後にオリジナル作は発売されなかったが、2005年夏に行われた「LIVE 8」
にてロジャー・ウォーターズも参加し、一夜限りの奇跡の再結成を果たす。その後再結成ツアーが期待されたが、残念ながら実現していない。2006年7月7日、ピンク・フロイドの創始者でもあるシ
ド・バレットが死去。また2008年9月15日にはリチャード・ライトも死去。2014年11月、1994年以来20年ぶりとなる新作『永遠(TOWA)』をリリース、これがラスト・アルバムとなる。2017年の
今年デビュー50周年。5月よりロンドンV&A博物館でピンク・フロイド大回顧展「The Pink Floyd Exhibition: Their Mortal Remains」が開催される。

●監督：アラン・パーカー

44年2月14日生まれ。小さな恋のメロディの脚本を経て、76年の「ダウタウン物語」で監督デビュー。78年「ミッドナイト・エクスプレス」ではアカデミー賞監督賞にノミネート。他「フェイム」、「ハーディ」(84年)、「ミ
シシッピー・バーニング」(88年)、「ザ・コミットメンツ」(91年) etc.

●脚本：ロジャー・ウォーターズ

ロジャー・ウォーターズ (Roger Waters, 1943年9月6日-) イギリス出身。ピンク・フロイドのメンバーで、創設メンバー。映画『ザ・ウォール』の原作であるアルバム『ザ・ウォール』の作詞・
作曲を手掛ける(一部共作)ピンク・フロイドのリーダーであり「頭脳」であったが、1985年バンドを脱退。以降ソロ活動を続ける。5月19日に、25年ぶりの新作『Is This the Life
We Really Want?』が発売する(予定)

●アニメーション：ジェラルド・スカーフ

風刺画家、イラストレーター、アニメーター。米Time誌、英サンデー・タイムズ紙など雑誌、新聞で風刺漫画、イラストレーションを手がける。近年ではディズニーの「ヘラクレス」のアニメーション
なども手がける。

●主演：ボブ・ゲルドフ

54年ダブリン生まれ。ニュー・ミュージカル・エクスプレスの記者を経て、ブームタウン・ラッツを結成。77年デビュー。79年「悲しみのマンディ」が大ヒット。その後、Do They Know It's Xmasやライブアイドなどのチャリ
ティ活動をおこなっていく。

『この物語、『The Wall』は、ピンク・フロイドの音楽、イメージ、そして自然な降下でシンプルに語られる。この物語には通常のセリフは存在しない。これはロサンゼルスのとあるホテルにと自己
こもっている、“ピンク”というロックン・ローラーについての物語。あまりにも多すぎるショーの数、あまりにも多くの薬の量、多すぎた賞賛を受け、疲れ果てた人物。テレビにはごくありふれた戦
争映画が、写っている。私達は“ピンク”が積み上げてきた感情の「壁 (The Wall)」となる。彼の痛々しい記憶に踏み込んでいく過程で、“時と場所”、“現実と悪夢”の間を行ったり来たりする。
彼は次第に現実の世界から身を引いていき、自分自身を感情のない“テマゴーク(扇動政治家)”だと思いつまむようになる。更に、自らの世界と自身の周りへの憎悪の極みとして、感情のない群衆に對し
て“支配する”という勢力の保持をする、悪夢の世界への足を踏み入れていく…。その後、彼の内面での裁判が行われる。彼の過去を知る人間、彼の壁を積み上げるのに貢献した、まさにその人
—アラン・パーカー (映画『ザ・ウォール』監督) —

ピンク・フロイド映画『ザ・ウォール』収録曲

- | | |
|---|--|
| 1. The Little Boy That Santa Claus Forgot ザ・リトル・ボーイ・ザット・サンタ・クロース・フォーゴット | 16. Goodbye Cruel World グッバイ・クルエル・ワールド |
| 2. When The Tigers Broke Free ホエン・ザ・タイガース・ブローク・フリー | 17. Is There Anybody Out There? イウ・ゼア・エニバディ・アウト・ゼア |
| 3. In The Flesh? イン・ザ・フレッシュ? | 18. Nobody Home ノバディ・ホーム |
| 4. The Thin Ice ザ・シン・アイス | 19. Vera ヴィーラ |
| 5. Another Brick In The Wall (Part I) アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートI) | 20. Bring The Boys Back Home ブリング・ザ・ボーイズ |
| 6. When The Tigers Broke Free ホエン・ザ・タイガース・ブローク・フリー | 21. Comfortably Numb コンフォータブリー・ナム |
| 7. Goodbye Blue Sky グッバイ・ブルー・スカイ | 22. In The Flesh イン・ザ・フレッシュ |
| 8. The Happiest Days Of Our Lives ザ・ハピエスト・デイズ・オブ・アウ・ライヴス | 23. Run Like Hell ラン・ライク・ヘル |
| 9. Another Brick In The Wall (Part II) アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートII) | 24. Waiting For The Worms ウェイティング・フォア・ザ・ワームス |
| 10. Mother マザー | 25. Stop ストップ (※2) |
| 11. What Shall We Do Now? ワット・シャル・ウィー・ドウ・ナウ? (※1) | 26. The Trial ザ・トライアル |
| 12. Young Lust ヤング・ラスト | 27. Outside The Wall アウトサイド・ザ・ウォール |
| 13. One Of My Turns ワン・オブ・マイ・ターンズ | ※1 「Empty Spaces」の元々のver. |
| 14. Don't Leave Me Now ドント・リーヴ・ミー・ナウ | ※2 ピンク (ボブ・ゲルドフ) による歌唱 |
| 15. Another Brick In The Wall (Part III) アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートIII) | |

ストーリー |

父親を第二次世界大戦で失ったピンクは、母親の過保護な愛情の中で育っていく。抑圧的な学校教育も彼の人間形成に大きな影響を与えた。やがてロック・ミュージシャンとして成功し、結婚もして
順調な人生を歩むが、ロック・スターとしてのプレッシャーからドラッグの過剰摂取に陥り、精神的に荒廃していき、ピンクは完全に周囲との「壁」を築いてしまう。そして、ロックコンサートで無意
味に熱狂する観客に対し、ピンクは自分自身を扇動政治家だと思いつみ、全体主義やファシズムに救いを求める。そんな時、彼の心の中で裁判が開かれ、壁を打ち崩すよう判決が下される。

●スタッフ・出演者 |

監督：アラン・パーカー

脚本：ロジャー・ウォーターズ (ピンク・フロイド)

映画音楽：ロジャー・ウォーターズ、デヴィッド・ギルモア、ジェイムス・ガスリー 音楽：ロジャー・ウォーターズ、デヴィッド・ギルモア、ボブ・エズリン

ピンク・フロイド：ロジャー・ウォーターズ(B)、デヴィッド・ギルモア(G)、ニック・メイソン(Dr)、リチャード・ライト(Key)

製作：アラン・マーシャル | アニメーション：ジェラルド・スカーフ | 撮影：ピーター・ビジウ | 編集：ジェリー・ハンプリング |

主演：ボブ・ゲルドフ

企画・主催 | (株)Zepp ホールネットワーク、(株) ソニー・ミュージックダイレクト

提供 | ワナー・ブラザーズ映画・ソニー・ミュージックレーベルズ

© 1982 Warner Bros. Entertainment, Inc. All rights reserved. *ご紹介いただく際、上記の表記をお願いいたします。

公演の詳細は、イベント公式サイトにて御確認ください。www.110107.com/zepp-de-zek twitter | #絶響上映

6/21(水) ピンク・フロイド音楽映画『ザ・ウォール』、一夜限りのライブ絶響上映@Zepp 東阪

ソニー・ミュージックダイレクト

宣伝：屋間、山崎、鍵尾 TEL:03-3515-5586/FAX:03-3515-5589